

予報期間 2月14日から2月20日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 16日は、低気圧が千島近海へ進み、高気圧が日本海へ移動する。前線が華中から東シナ海へのびる。
- 17日は、高気圧が日本の東へ移動する。前線が東シナ海から日本の南へのびる。
- 18日から19日は、低気圧が日本海からオホーツク海へ進み、前線が北日本付近を通過する。大陸の高気圧が東シナ海へ移動する。
- 20日は、低気圧はオホーツク海に留まる。高気圧が日本の南へ移動する。

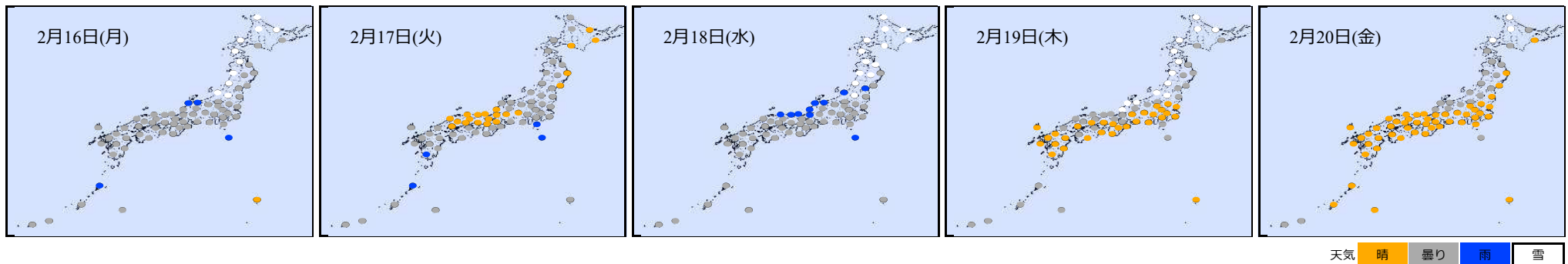
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

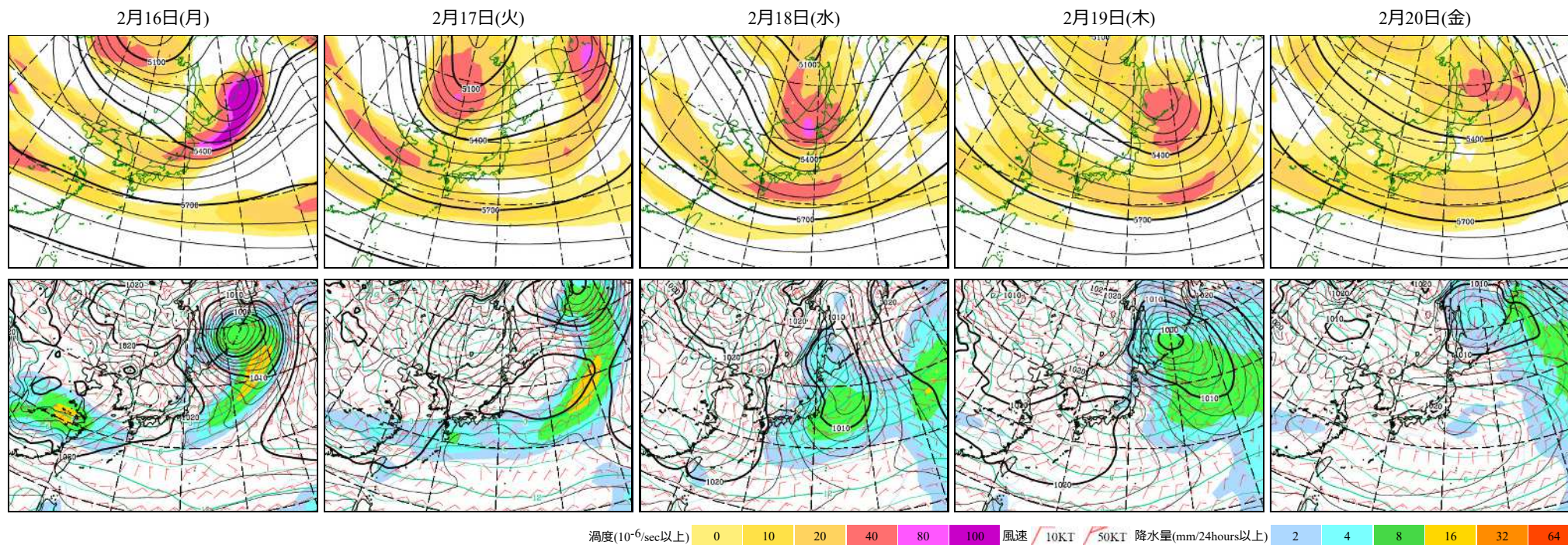
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

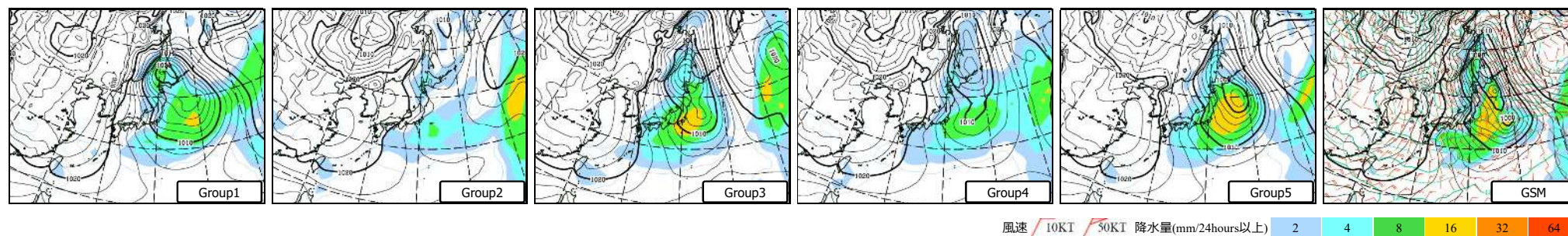


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多いが、16日から17日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月18日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日から18日は日本の南の低気圧が不明瞭となり、西・東日本太平洋側の降水確率が小さくなった。また、19日は冬型の気圧配置が弱まる予想に変わり、日本海側の降水確率が小さくなった。
- スプレッドは、期間の後半は大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。